

西富岡・向畑遺跡

(伊勢原市No.160 遺跡)

調査期間 20070403～継続中

所在地 伊勢原市西富岡

時代

旧石器
縄文
奈良・平安
中・近世



作成日:20100405 更新:20110511

概要

西富岡・向畑遺跡は、中日本高速道路株式会社による新東名高速道路建設に伴う事前調査として、2007年4月から発掘調査を実施しています。

遺跡は、富岡丘陵の西側から南側にかけて南北約2kmわたって広がる遺物散布地として知られています。現在行っている発掘調査で、旧石器時代、縄文時代、古墳時代、奈良・平安時代、中世、近世の遺構・遺物が見つかりました。

近世の遺構は、畝状遺構や道状遺構、井戸などが検出されています。8区からは、ほぼ全面宝永の火山灰で埋もれた畝状遺構、台地縁から埋没谷斜面にかけては、谷に平行して道状遺構が見つかりました。10区からは、宝永の火山灰で埋まった井戸底から石臼などが出土しています。

中世の遺構は、掘立柱建物址や地下式坑、道状遺構などが検出されています。

古墳時代から奈良・平安時代の遺構は、竪穴式住居址と掘立柱建物址、杭列、円形土坑等が検出されています。8区の埋没谷からは、谷に沿って杭列が見つかりました。杭列の埋没谷側からは、曲げ物、木皿など多くの木製品が出土しています。11区H21号住居は1辺が9.8mを測り、本遺跡の中では最大規模を測ります。6世紀後葉の須恵器長頸瓶



▲8区 埋没谷から検出された杭列



▲8区 埋没谷から出土した曲げ物

(ちょうけいへい)が出土しています。

縄文時代の遺構は、敷石住居址や竪穴式住居址・埋甕・土坑・集石・配石・落とし穴が検出されています。縄文時代中期から後期の遺構が中心です。

旧石器時代では、10区で石器が見つっています。相模野台地のB1層～L2層に相当すると思われる土層から凝灰岩を主体とする礫群が検出されています。



▲ 8区 埋没谷から出土した木皿



▲ 11区 奈良・平安時代の住居